



SERVE TO UNITE MANKIND  
全人類を結びつけるために奉仕せよ  
(R.I. 会長 W. ジャック デービス)

第685回例会

1977~1978 第31号 1978. 2. 8



国際奉仕副委員長  
伊藤 貫一 会員

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30 例会場 国際ホテル  
事務所 函館市大手町5-10 日魯ビル 3階 電話(0138)23-3870

本日のプログラム

“ 中南部の旅 ” 下郡山 信 一 会長

第684回例会記録

- 司 会 高 杉 重 男副会長 ●斉 唱 奉仕の理想
- ビジター 函館 R.C. 深瀬 寛君他3名 函館東 R.C. 白崎 豊治君他4名 亀田 R.C. 婦山 一彌君他1名 五稜郭 R.C. 小島 実君他2名
- ゲ ス ト 少林寺拳法函館支部長 片桐 義雄氏

◇特別講演 ◇ほか本会議行事

13:00 ◇R I 前会長昼食会

午 后 ◇婦人向行事

14:30~16:30

◇組み合わせ地区およびクラブのプログラム

19:00~21:00

◇R I 会長主催ダンス・パーティー

・5月18日(休) 第4回本会議

9:45~12:00

◇R I 事務総長による報告 ◇特別講演

◇ほか本会議行事 ◇R I 会長による閉会の辞

◇螢の光 ◇閉 会

以上が日程の概要ですが、ほかに多彩な余興プログラム、茶の湯、琴及びエレクトーン演奏、ゴルフ・コンペティション等々を計画しております。

ご期待の上ご家族とご一緒に多数ご参加をお待ちしております。

●出席報告

会 員 数	70名	出 席 率	函 館 北 ( 1/18 ) 100.00%
出 席 席	47名		函 館 東 ( 1/10 ) 98.86%
欠 席 席	23名		函 館 ( 1/12 ) 89.39%
他クラブ出席	23名		函館五稜郭 ( 1/13 ) 100.00%
出席合計	70名		亀 田 ( 1/ 9 ) 90.63%
出席除外者	0名		

次回例会日 2 月 8 日

プログラム “ 中南米の旅 ” 下郡山信一 会長

●会長報告 高杉 重雄副会長

函館のロータリークラブに貢献のありました伊部政次郎さんが去る1月25日に亡くなられて、明日が本葬儀との事でありませう。

同氏は71年、72年度にポール・ハリス・フェロー賞としてアーチ・クラウン賞を受賞されましたと共に、函館地区の第1号ガバナーを務められた方で御座居ます。

くしくも同氏の本葬儀の前日に当りますので、1分間の黙禱を捧げたいと存じます。

又、本会の駒井幸一会員は、急性肺炎の為に去る1月18日に入院加療中との事ですが、面会謝絶の為に病状が判明致しませんが、くわしく分り次第お知らせ致します。尚同氏の全快を皆様と共に念じたいと存じます。

●親睦活動委員会 沢田 鶴造副委員長

ニコニコBOX投入のお知らせ

- 遠藤 会員……………会報に写真が出ましたので
- 沢田 会員……………1月も無事に終わりましたので
- 西巻 会員……………1月100%出席出来ましたので
- 松本 会員……………なんとなく
- 小笠原会員……………新年恒例会が盛大に終らせて頂きましたので

●ロータリー情報委員会 俣野 純夫委員長

1978年国際ロータリー東京大会には、是非共多数の会員の皆様がお参加下さいませにお願い致します。

1969年でしたか、フランスのニースで開かれた世界大会には、日本から120名程参加し、その内の1名として私も出席致しましたが、世界大会に参加すると本当に記念となる記念品が頂けますが、是非共皆さんも参加して頂くたいものです。

又、スイスのロザンで開かれた世界大会には、先刻の会長報告の中にありました故伊部ガバナーと共に函館から35~6名程が参加し、盛大な国際大会に目を丸くしたものであります。とも角、世界大会が日本で開催されると言う事も今後なかなか機会が無かろうと思っておりますので、今回の大会を見逃さずに参加される事を切望します。

●幹事報告 北条 澄雄幹事

- ロータリークラブの全国名簿作成の為に、函館北ロータリークラブの名簿を回覧致しますので、変更のある方はお知らせ訂正下さい。
- 本会終了後、定例理事会を開きますので、理事さんはよろしくお願い致します。

●第二次函館市民友好訪問中参加団募集について

函館東ロータリークラブの鈴木会員がビジター出席されたと同時に、表題の如く第二次函館市民友好訪中団の団員募集を兼ねて、その主旨を説明されました。参加要項についてはリフレットが御座居りますので参考になされるとよろしく存じます。

●卓話 “ 少林寺拳法を通じて青少年教育 ”

少林寺拳法函館支部長 片桐 義雄氏

わずか30分程度の時間で少林寺拳法の全てを簡単にでも説明すると云う事は困難であるとの前置きの上で、少林寺拳法の目的、歴史、実践を通しての青少年の健全育成の在り方を熱心に説いておられました。

少林寺拳法は、単なるスポーツや武道とは異なり、金剛山総本山少林寺に伝承されて居るところの、

- (1) 仏弟子の健康増進
  - (2) 護身伝達
  - (3) 精神修養
- } 三徳

以上の三徳兼備の宗門の行であり、人間完成が最終的な目的である事を特に力説されました。永遠の平和は人が作り出すものとの考えから出発している少林寺拳法の精神がそのまま青少年の健全育成に結びつけられておりますところは、私達の地域社会や会社内、職場等での人材養成の面に非常に興味深いものがあり、大いに参考になったものと思われませう。

●随想 “ 立春に偲う ”

人は誰れもが幸福を探究してやまない。その幸福感の差異は別として。然し「ゲテ日く」どうして人は幸せを遠くに求めるのか、幸せは自らの足下にあるのに „との名言を再考すべきであろう。私達は非常に恵まれた生活の中にある不況だ、インフレだと云い乍らも。恵まれている生活の中で当たり前と思うからこそ不平不満が出る。当たり前のお陰様で、有難いと思える人は本当に幸福であろう。或る医師が “ 永年病人を見つけておるが最近とみに自分が歩ける事が有難い事だと思わずにおられない。手足が動かせると云う事は本当にすばらしい事ですね ” と。

名古屋に所在する老傷痍軍人に毎年6月にお会いする事が、ここ数年来つづいているが、或る青年がその老人宅を訪ねた折に、悪気があって申した事ではないが “ おじいちゃんはいいいね、30年間、働かずに苦労なしで毎年何十万円もの恩給をもらって ” と。ちなみにこの老人は戦地で両眼失明した方である。80才に近いこの老傷痍軍人は前後を振り返りみず思わず叫んだと云う。 “ 100万円の手当が200万円になっても、その金が欲しいとは思わぬ、出来る事なら見える眼を返してくれ ” と。

私達は自らを喜ばずにはいられない。足が痛い、腰が重いと云い乍らでも、歩く事が出来るのである。歩けると云う事は本当に素晴らしい事ではなからうか。

私達は物を見る事が出来る。眼が疲れる、近視になった、老眼になったと不自由を訴え、不満をもらす。然し、ものを見る事の出来る眼の活動が生きている。社会の動きを見、可愛い妻や孫の顔を見る事が出来るのである。

歩くことのかなわぬ人でも手は自由に動かせる。手足が全く不自由になっても、物を見る事が出来る眼の力がある。たとえ両眼が失明しても、世の変動を知る事の出来る耳の働きがある。

手足を動かし、物を見て、音を聞く、まったく当り前の事である。然しその一つが欠けても私達は非常に不自由を感じる。当り前の事を当り前であると感ずるところが人間の盲点であろう。

人びとのしあわせは何処にあるのであろう。現在の環境が変わったからであらうか。現在の生活状況が好転したから幸福なのだろうか。



人間の幸福とは、物質的な満足感や、断片面なぬか喜びでは無いはずである。今日は幸福の絶頂に立ち、明日は不幸の谷底に泣く事であれば、真のしあわせとは申せまい。真の幸福とは、どのような境遇にあろうとも喜ぶ事の出来る事が唯一の条件であろう。

幸福感とは素朴な一面でもある。今ここに云える事は“私が生きている”と云う全く平凡かつ当然な事の喜びである。

“生きて居る”と云う事は素晴らしい事です。私の命の流れの中に躍動するいぶきが私そのものを支えてくれているのです。

最近うすれて来た“お陰様で” “勿体ない” “有難とうございます”と云う言葉の意義を今一度お互いに熟考してみたいものです。当り前の事を当り前とせず、有難たい事です。お陰様でと云い切れる人こそ、真の幸福者であろうと但願しますが如何でしょうか。諸兄先輩の御意見をお寄せ下さい。

( G 記 )

### ◎国際奉仕におけるロータリー

「私は、すべての人をその真価によって判断し、そして、その人の真価を国籍、人種あるいは信条によってきめるようなことを拒否しよう。」

「私は、自分のクラブを通じて、世界各地のロータリーのことをよく知るように努めよう。」

「私は、自分が単にこの国の国民であるだけでなく、世界の市民であることを自覚して、できる限り、国際的なでき事に関する知識をもつようにしよう」

「ロータリー・ゼフィア」

(米国タゴタ州スーフォールズ)より

### ◎出席報告

会 員 数	70名	出 席 率	函 館 北 ( 1/25 )	97.14 %
出 席	47名		函 館 東 ( 1/17 )	98.86 %
欠 席	23名		函 館 ( 1/19 )	86.26 %
他クラブ出席	20名		函館五稜郭 ( 1/20 )	100.00 %
出席合計	67名		亀 田 ( 1/16 )	休 会
出席除外者	0名			

次回例会日 2 月 15 日

プログラム “ 移動入浴車の眼 ” 保健婦 加藤タミ子女史

SERVE TO UNITE MANKIND

全人類を結びつけるために奉仕せよ

(R.I. 会長 W. ジャック デービス)

第686回例会

1977~1978 第32号 1978 . 2. 15



雑誌副委員長

藤川 正臣会員

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30 例会場 国際ホテル  
事務所 函館市大手町5-10 日魯ビル 3階 電話(0138)23-3870

本日のプログラム

“ 移動入浴車の眼 ” 保健婦 加藤タミ子女史

第685回例会記録

◎司 会 下郡山 信 一会長

◎斉 唱 我等の生業

◎ビジター 札幌南R.C. 岩田 重雄君 小樽南R.C. 小松 清君  
函館R.C. 石塚 元彦君他7名 函館東R.C. 常泉 嘉  
孝君他1名 五稜郭R.C. 佐藤 博君他2名  
亀田R.C. 久保 幸一君